（別紙4）　　令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270202502		
法人名	社会福祉法人　長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホーム　はな畑		
所在地	長崎県佐世保市大潟町152-1		
自己評価作成日	令和　3年　7月10日	評価結果市町村受理日	令和3年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和　3年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な住宅街の中にあり、一般の方の居宅も隣接している。幹線道路の近くに位置しているが、静かで過ごしやすい環境にある。町内会にも参加あしており、コロナ禍以前は、夏祭や町内清掃、公民館掃除にも参加しており、近隣及び町内には、「はな畑」の存在は認識してしていただいている。
高台であり、面前には市営相浦総合グランドや弓張岳を望むことができる。市内でも大きな川の近くではあるが、浸水の危険性は低い。
中庭には、桜を始め梅や紫陽花、椿など植えてあり入居者様の居室より眺めることができ、散歩にも足り組んでいる。
職員は明るく、入居者様とよく笑い声が聞こえる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体法人は佐世保市内を中心に高齢者支援の各種事業所を展開しており、入居者、家族が多様な選択肢を持てることで安心感へと繋がっている。ホームは県立大学や総合グラウンドから程近い高台に位置し、フロアの窓からの眺望に恵まれた開放的な環境にある。庭園には木々や花が植えられ、春の桜見では手作り弁当を持参して花見を楽しんだり、職員と入居者が一緒に散策し、季節感を味わうことができている。ホームは週1回、訪問看護サービスを利用しており、全入居者が看護師から医療的な観察を受けると共に、特に排泄支援に関する助言を通じて適切な排泄介助に繋げている。現ホーム長は当役職を急遽引き受けることになったが、経験豊富な職員に支えられながら引き続き入居者への手厚い支援に取り組んでいる。コロナ禍の中、ホームでは外部との面会制限を継続しているが、定期的に発行する「はな畑新聞」には入居者の日常や行事の様子を伝え、家族から要望等を適宜聴き取り、家族の安堵感に繋げている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット名　1階

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の職員の目につくところに貼りだしており、新規に就く職員には説明を行っている。	法人の基本理念「もっと優しく、もっと温かく…」のもと、ホーム理念「気くばりと心くばりで、心地よく」を作成し実践に努めている。法人の理念はフロアの壁に掲示し、職員が理念を目にし意識して理念に沿ったサービスの提供ができるよう工夫している。	ホームの理念が作られた経緯を職員に伝達したり、あらためて確認することで理念に込められた想いを全職員で共有することに期待する。また、職員各自で理念を踏まえた年間目標やホーム全体の目標を設定するなど、目標達成度をホーム長と共に振り返り、理念に沿った実践状況の把握と職員の姿勢やばらつきがないかを確認することに繋げるなど、今後ホーム全体で具体的に取り組むことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、参加していた地域行事等が中止となってはいるが、夏祭に参加手伝いや、町内・公民館清掃に参加。近隣の方々とはあいさつを交わし、町内会にも入って回覧板が回ってくる。	ホームは地域の公民館清掃や市民大清掃等に一住民として参加している。コロナ禍以前はホームの夏祭りに地域から役割を与えられるなど、積極的に地域との交流や地域消防団との繋がりを持つことができており、信頼関係を構築している。入居者の中には地域の「いきいき百歳体操」に参加するなど地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実績としてはありませんが、地域の方々が相談に来られたり、困っている方を見かけた場合には、積極的に対応するように職員と話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面会議が続いており、ほぼ報告という形になってしまっているが、できるだけ意見を吸い上げて、サービス向上を目指している。	コロナ禍の為、運営推進会議は入居者の現状や支援内容、今後の予定等を書面により報告し、各メンバーに意見を求めている。今後も書面による会議の継続が予想されるため、ホーム長は会議の意義や活性化についてメンバーに客観的な意見を求め、運営の透明化と書面会議の活性化に繋げていく意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	最近では、必要時以外では積極的に係わっているとは言えず、メールでのやり取りが増えているように感じている。	ホーム長は要介護認定更新等の申請時には長寿社会課、生活保護受給者の手続き等については生活福祉課の窓口に出向き、ホームの現状を伝え助言を得ている。ホームの空床状況は地域包括支援センターと情報交換を行い連携を図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内・事業所内で研修を行っており、理解している。	法人内の新人研修やホーム内での勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束マニュアルは職員がいつでも確認できる場所に設置している。身体拘束に該当する11項目、3原則、3つのロックについては、今後、職員が理解し、浸透させる工夫が望まれる。	現在、運営推進会議を通じてホームの実践状況を報告しているが、3か月に1回の身体拘束適正化検討委員会の開催状況が分かりづらい。身体拘束適正化検討委員会開催時には身体拘束についての質疑応答の内容や虐待・身体拘束に関する職員研修実施状況等の報告事項を議事録として残しておくことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内・事業所内で研修を行っている。日々のケアにおいても、職員間で皮下出血などの情報や原因の共有など、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で、研修を行う機会を設け必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	可能な時は、契約前に面談を行い説明や施設見学、不明点、不安等を聞き取り契約前や後も適宜相談を受けるような対応を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や、ご本人の要望に可能な限りお応えできるよう心掛けている。居室にお位牌を備えておられたり、最近はテレビの設置の要望が増えてきています。	現在、コロナ禍により家族の面会制限を実施している。家族には電話を通じて近況報告や家族へ意見を求め、運営に反映させたり、ケアプラン見直しの際にも活用している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも、要望や意見を聞き取る姿勢を持っており、必要性を感じたときには、無記名でアンケートをとっている。	職員は職員会議に限らず、いつでも運営に関する個人的な意見や要望を申し出できる環境にある。近況ではホーム長が交代した後に職員アンケートを実施し、職員の率直な思いを把握できるよう努めている。ホーム長は職員の意見や提案を尊重し、入居者支援に活かすよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めてはいるが、人員の状況などにより改善できていない状態が継続している。法人には働きかけてはいるが、新規の採用等が困難な状況にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの状態は、一緒にケアの業務をすることで把握している。必要時は、本人と話をし研修等の提案をしスキルアップができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入っており、研修会や交流会に参加するように努めているが、最近は開催されていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階では、ご本人と積極的にコミュニケーションをとるように努めている。言語だけでなく表情の変化にも気を配り対応に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できるだけ、ご家族の要望も聞き取ることに努めている。経済的なこと、医療面では受診や通院・入院については、意思意向を把握できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでは、医療面での都度の対応が多くなっている。日々の体調や変化を見極め、医師との連携相談を都度行っており、ご家族とも連絡相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話が困難な入居者様にも、積極的に話しかけたりコミュニケーションをとっており、表情を含めてご本人の意思をできるだけくみ取るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会ができない状況が長期化しておりますが、ご家族にご協力いただいており感謝しており居ます。その中において、電話連絡においては、近況や毎月新聞を作成して生活状況を報告しています。電話で直接お話ししていただくこともあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に確認のうえ、面会等は柔軟に対応しておりますが、コロナ禍のなか現在はお断りしています。	入居者が在宅生活時より大切にしてきた馴染みの関係を入居時に本人や家族へ聞き取り、生活歴を把握して入居後の支援に活かすよう努めている。現在、コロナ禍の為、これまでの関係を継続することが難しい状況となっており、読書が好きな入居者には移動図書館を利用したり、近隣を散歩し気分転換を図る等、可能な範囲で支援を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日でも多くの時間を過ごしておられる、フロアーでのソファーやテーブルのでの配置を必要に応じて適宜対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣のスーパーなどで、お会いすることも度々あり、積極的に話しかけるようにしており、逆にご家族からお声をかけていただくことも少なくない。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とよく話し合い、または懇意にしている職員に聞き取りしてもらい、できる部分と困難な部分を精査し、お互いの妥協点などを話し合いながら、ご本人が納得できるように努める。	職員は入居者との日頃のコミュニケーションの中で発言やしぐさ、表情等を見逃さないよう観察し、入居者の思いの把握に努め、記録に残して職員間でその方の情報を共有している。本人の思いや意向を把握し各入居者の残存能力を活かすことができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族または、サービスを利用されていた場合は、事業所に状況等を確認把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所初期においては、ご本人の生活状況を把握し個人のケース記録に気づきや言動について記録し、職員j間で共有できるようにしており、その後もご本人の変化等気づいたら職員間で気軽に話し合えるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを開き介護計画書の見直し時期に全員で話し合っている。見直し時期でなくても、気づきや変更が必要だと感じた場合など家族とも相談して変更等を行っている。	ホームでは入居者毎に担当職員制を採用している。ケアプラン見直し前の評価を実施し、担当職員が全体会議で発表するとともに会議出席者が意見を出し合い、入居者の心身状況に応じた個別のケアプランが作成できるよう取り組んでいる。ケアプランの長期・短期目標に沿った支援の実施や目標達成度について「ケアメモ」を用いて確認し、個別記録に転記して他の職員と情報共有を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様個々のケース記録や申送りノートを活用して、見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の配置状況等により、困難な状況です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族との面会も中止している状況で、現況できておりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外は基本的に受診はご家族対応ですが、必要に応じては事業所で対応も柔軟に行っている。また、希望等により協力医に変更も対応している。	入居者は主に協力医による訪問診療を受診している。以前からのかかりつけ医を受診する際は家族が同行対応している。尚、家族対応が困難な場合には職員が受診同行を行っている。また、週1回、訪問看護サービスを利用し、入居者全員が健康管理に関しての適切な医療や助言を得ることができている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護を受けており適切に相談したり指示を受けて速やかに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、事業所での状況等申送り、適宜電話で状況確認を行い、早期に復帰できるように働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針について説明、意向を確認しているが、時間の経過やご本人の状況変化ににより必要時に都度確認を行うように努めている。	入居時に本人や家族へ看取りに関する説明を行い、意向を確認し、入居者本人の状態が変化した際には再度家族へ看取りに関する意向を確認している。家族の意向が変化することも考えられる為、その場に応じた対応や医療的な措置が必要となった場合は、家族の希望に応じて法人内の関連事業所を紹介するなど、本人や家にとってが安心できる支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医には24時間電話連絡ができる体制を整えていただいている。管理者にも連絡指示を受けられるようにしている。また、AEDを設置しており、定期的に消防署と連携して心肺蘇生やAED使用の研修を行っている。（コロナの状況で最近は職員のみ）		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	コロナ禍以前は、避難訓練の際消防署、消防団、町内の方に参加していただいていた。最近では、入居者様と職員のみで年2回行っている。 また、毎日自主防火点検をチェック表を使用し行っている。	年2回、主に夜間想定の災害訓練を実施している。コロナ禍以前の訓練時には、消防局や地元消防団が参加していたが、現在は職員と入居者による訓練を実施している。訓練実施後は運営推進会議へ報告し、実施状況の写真をパソコン内に保管、反省点を記録に残している。備蓄等はホーム内に整備している。尚、自然災害に関する訓練の実施が今後の課題と言える。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴、更衣など、他者に見えないよう配慮はしている。 耳が遠い人へのトイレの声掛けなど、つい声が大きくなりがちなので、メモに書いて見せるなどの工夫が必要。	職員は入居者の排泄時や排泄失敗時には、周囲に分からないよう声かけし入居者の羞恥心に配慮している。難聴の入居者への声かけ時には、耳元で分かりやすく話すことを実践している。居室への入室時はノックしてその方の名前を呼んで入室している。職員は居室をその方の家と捉えて日々の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろから声掛けにて本人の意思を確認しながら介助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの性格を把握し、その人に合ったペースで介助するよう心がけている。 その日をどのように過ごしたいか、全ての利用者さんの希望を確認することは不十分のため、今後の課題		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を着用していただくよう支援し、長髪の方の髪を結う手伝いをしたり、男性の方には髭剃りの声掛け、介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日ごろから利用者様の好き嫌いを把握し、誕生日には本人の好物、リクエストメニューを提供している。 個々の能力に応じて、下膳やテーブル拭きなどに参加して頂いている。	2名の調理担当職員が昼・夕食、朝食は夜勤者が調理している。日頃から入居者に食べたいものを聞き、嗜好に合わせたメニューを提供している。10月から3月は毎週金曜日の昼食に新鮮な刺身を提供するなど食事が楽しみなものとなるよう工夫している。入居者の誕生日には本人の食べたい食事を準備し、食事を通してホーム全体で祝福する機会を設けている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量を記録して、水分や食事量が不足している人には、食事時間以外にも、本人が好んで摂取されそうなものを、個別に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立で出来る方は声かけにて歯磨きして頂いている。 介助が必要な方は一部介助にて口腔ケアを行い、そのつど口腔内の確認も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方には、間隔があいた時にトイレの声かけをしている。 介助が必要な方は、本人の状態に応じて、昼・夜で布パンツ・リハビリパンツを使い分けたり、改善されれば徐々にオムツ類の使用を減らすよう心がけている。	職員は日頃の支援の中で、排泄の観察や排泄チェック表に記入して入居者毎に排泄パターンを把握し、個別の支援を行っている。排泄自立した入居者も職員が遠目で観察し、排泄状況を確認している。排泄誘導の際には入居者の状況によりその方に応じた声かけに配慮するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、出来るだけ多めに水分を摂っていただいたり、食物繊維や乳酸菌なども、食事で提供している。 また医師と相談しながら、薬も用いて排便コントロールに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方には、無理にはすすめず清拭や足浴、更衣などで対応している。 入浴剤など活用し、気持ちよく入浴して頂くよう支援を行っている。	ホームは1日3名を目途に入浴支援を実施している。毎日入浴できるよう準備しており、入浴拒否や体調不良等に関しては代替日を設け対応している。入浴時は入居者が心地よく一時を過ごせる時間であることから、職員は入浴の際に入居者と個別のコミュニケーションを取り、入居者の新たな一面や情報を得る機会となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立の方は、気の向いたときに自由に居室で休憩されている。介助が必要な方は、状態に応じて足を挙上したり、横になったりして、のんびりと過ごして頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも確認できるよう、ケース記録に薬情書をはさんだり、服薬時には薬の画像を確認できるよう工夫している。 薬の変更があったあったときには、申し送りノートなど活用して職員全員に周知し、情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の能力に応じて家事支援を行ったり、趣味活動の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、現在は病院受診のための外出しか行えていない。 病院対応は、職員だけでなく、ご家族にも協力いただいている。	コロナ禍以前は、買い物支援やホーム全体で外食に出かける等、活発な外出支援ができていた。現在はホーム内の広い庭園を散策したり、ホームで弁当を作り桜の花見を行う等入居者の日常生活が少しでも変化あるものにしようと取り組んでいる。ホーム長はコロナ禍が収束した際には、以前のような外食支援等、入居者の希望に応じたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方はホーム預かりとしている。 管理ができる方は、小額のお小遣いをご自分で持たれている。 コロナ前は外出時に自分の好きなものを買物し、自分で支払いする支援を行っていた。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望されるときには、必要に応じて、電話が出来るよう支援している。 手紙に関しては要望がなかったので今は行っていないが、希望があれば対応したい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部に壁飾りや生花を活けたりして、季節を感じられるように工夫している。 危険がないよう整理整頓をつねに心がけている。	ホームのフロアには季節を感じることができるよう手作りの花を飾りつけたり、ホームの庭園で入居者と職員が一緒に摘んた紫陽花の花を生ける等、居心地よく過ごせる工夫を施している。入居者は明るい環境の中で互いの表情を見ながら楽しく笑顔で食事やレクリエーション等ができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性を見ながら、席の配置を考えている。 外を眺めるのが好きな方用に、窓のそばに椅子を置くなどの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望があればテレビを設置したり、使い慣れたものを持ってきて頂いて、居室が落ち着く空間となるよう配慮している。	入居時に居室へ持ち込みできる物品について説明している。在宅時からの馴染みの物を居室に配置することでホームでの生活がこれまでの生活に近い環境を継続できるよう努めている。本人の希望により、テレビを持ち込んだり、位牌を持ち込んで居室でいつでも手を合わることができるよう支援するなど、その方に応じた居室作りとなるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さまが確認しやすいよう、トイレや浴室などのドアに見やすい文字で掲示をしている。 動線には、じゃまになるようなものを置かないよう工夫し、安全に配慮している。		